

新聞記事を読んで

一年二組 縄田 大輔

毎日、当たり前のように野球ができることに感謝しなければなりません。

僕は高校野球です。毎日学校の授業を終え、とグラウンドで先輩や仲間達と一緒に汗を流して自球を追いかけ、甲子園出場を目標に日々好きな野球をやっています。だから、この記事を読んで僕達のように当たり前のように過ごしていることが当たり前ではなかった。

時代がとも想像ができません。

今年の夏は「高校野球一〇〇年」戦後七〇年」といふ言葉をよく耳にします。野球のことは分かりますが、戦争のことは全く分かりません。僕の両親も戦争を知らない世代です。日頃から戦争の話なんてしたこともありません。ですから僕達と同じように甲子園を目指し野球をしていた球児が、僕達と変わらないうえで戦争に志願して戦死するなんて意味が分かりません。好きな野球ができなくなる



だけでなく、命を落とすなんて考えれば考え
るほど頭がおかしくなります。

この岐阜商のメンバーが甲子園で優勝した
際は、学校はもちろんのこと岐阜市中が盛り
上がり、優勝パレードも行われているなんて
今の時代と全く変わりないように思える。こ
の時、選手の中の常には「戦争」という
文字はあったのだろうか？それとも全くなか
ったのだろうか？僕には想像もつかない。

その後、岐阜商メンバーは学校を卒業し、
早稲田大、慶応大などに進学し東京六大学で
活躍し、社会人野球の強豪チームに就職した
みたいで、僕にとってはとてもウラヤまし
い人生を歩んでいるように思えた。本当に、こ
こだけの話を考えると今の時代と変わりない
し、むしろウラヤましいとしか思えない。
その後、それそれ選手達は志願して入隊し
戦死を遂げ、加藤、近藤両選手は神風特攻隊
に志願しての戦死だったそうです。

「神風特攻隊？」と体育大会とかでよく使った



リ、かっこいいイメージしかないが、はっき
リした意味が分からないので調べてみた。
「怖すぎる・・・」
僕には、とてもじゃないけどマネできない
と思っただ。
「お国の為？」
意味が分からない。国の為に自分の命を投
げ出すなんて、僕にはできない。
でも今の僕と同じ歳くらいの人達が自り戦
争に志願していたことを考えると、今とは何
か違う、想像もできない世の中だったのだろ
うと思う。考えてみるものの、その時代を生
きていない僕には理解できないと思う。
でも、一つ言えることは、この先輩達のよ
うな人達がいたことで今の僕達が平和に生き
ているのであって、毎日グラウンドで好きな
野球ができるのも先輩達のおかげだと思いま
す。この岐阜商の先輩達は、甲子園で優勝は
しましたが、まだまだ好きなお野球を続けたか
ったと思います。戦争というものに邪魔をさ



水なければ、まだまだ野球を楽しめたのに。
本当に僕達は恵まれています。何も考えず、
野球のことだけに集中することができまう。
この岐阜商の先輩方の分まで野球を楽しめ
野球ができることに感謝して、同じ甲子園の
土を踏みたいと思います。

